



NPO法人
日本アレルギー友の会
〒135-0002
東京都江東区住吉2-6-5
インテグレート村上3F
TEL 03 (3634) 0865
FAX 03 (3634) 0850
http://www.allergy.gr.jp/
mail j-allergy@nifty.com
郵便振替 00130-6-109985
編集発行人 堀内 繁

第40回日本皮膚アレルギー・ 接触皮膚炎学会にて

患者の立場から講演

「ステロイド外用薬の効果が実感でき、安心して使えるように患者に説明してほしい」と訴える

平成22年12月10～12日に広島市の国際会議場で開催された第40回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会にて、私、丸山恵理が患者の立場からの講演を行いました。

11日9時からのシンポジウム「アトピー性皮膚炎克服のための挑戦と実際」の中で「アトピー性皮膚炎患者からのメッセージー良好なコミュニケーションのために」と題し、日本アレルギー友の会の療養相談からわかるアトピー性皮膚炎患者の現状と問題点、そして皮膚科医の先生に診察の際に説明いただきたい事項について講演しました。

まず座長の江藤隆史先生(当会常任顧問・東京通信病院皮膚科部長)より、私の紹介と友の会の活動についてのご紹介をいただきました。当会の活動案内のち、アトピー性皮



会長の広島大学の秀先生(右)・広島大学三原先生(左)と丸山(中央)

膚炎患者の現状として、皮膚症状の悪化により、引きこもりや家庭内暴力、自殺にまで発展する場合があります。本人がうつ状態にな

◆目次◇

アトピー性皮膚炎治療の科学的根拠①	(2)
成人ぜんそくQ&A③	(4)
朝日新聞「患者を生かす」への反響	(6)
顧問の先生からのメッセージ⑭	(7)
書籍紹介『正しく知ろう 子どものアトピー性皮膚炎』	(8)

り、それを支える家族もうつ状態になるという悪循環に陥っている方もいることを説明しました。

アトピー性皮膚炎治療で問題となっている「ステロイド拒否」になる理由として、ステロイド外用薬について使い方の説明がないために不安を持ちながら使っている方が多く、そのような中でステロイドは怖い薬だという情報を得ることによって、ステロイド外用薬を使わなくなるという現状についてお話ししました。

そして先生方には診察の際に皮膚を診て、触って、適切な薬の塗る場所と塗る量、塗る期間を説明していただきたい、と訴えました。それによつて患者は、ステロイド外用薬は効くということを実感し、適切に安心して使うことができるのです、と説明しました。

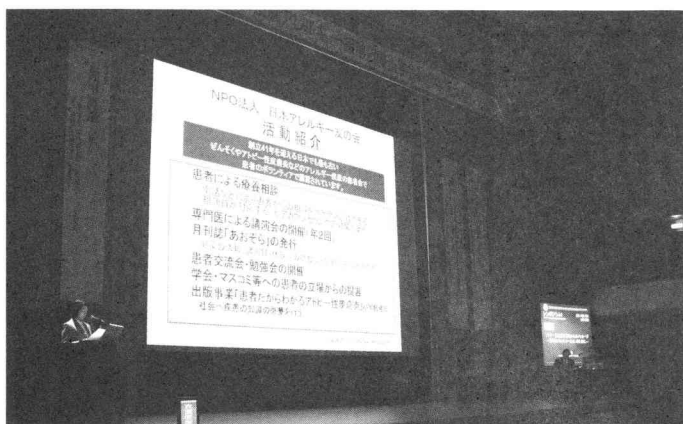
1500名入るフェニックスホールという大きな会場で専門医の先生方に講演するという機会をいただき、大変緊張しましたが、終了後に何人もの先生方からお褒めの言葉をいただき、日頃の療養相談で思っていること、当会スタッフと議論をしたアトピー性皮膚炎治療での問題点などが医師に伝わった手ごたえを感じ、嬉しかったです。

次は国立成育医療研究センターの大矢幸弘先生の「小児アトピー性皮膚炎の特徴と患者

指導」、広島大学の三原祥嗣先生の「アトピー性皮膚炎における汗アレルギーと対策」、順天堂大学浦安病院の「アトピー性皮膚炎のかゆみを制御する」、広島大学の平郡隆明先生の「食物多糖類によるアトピー性皮膚炎発症と増悪への予防への挑戦」と、アトピー性皮膚炎治療の第一線でご活躍の先生方と一緒にシンポジウムに参加させていただきました。

今回の講演は、1年前から当該学術大会会長であり、広島大学皮膚科教授の秀道広先生よりお招きをいただき、実現したものです。

患者が学会で講演できるという機会はなかなかないと思いますが、患者の代表として、患者の実態や意見を先生方にご理解いただくために、これからもこのような機会を生かしていきたいと思えます。
(丸山恵理)



シンポジウムでは友の会の活動紹介から始めた